

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービスはなぞの		2026年 03月 26日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	1	・活動時間やグループ分けを調整し、同一空間に集中しないよう運用面で工夫している。 また、活動別にスペース用途を明確化し、安全確保と活動効率の両立を図っている。	・教室内の一角を「静スペース」として明確に区分し、簡易デント・床マット・クッション・視覚表示等を用いて落ち着ける環境を整備する。活動エリアと視覚的に区別することで、安心して移動できる空間づくりを行う。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11		・児童の状態や行動特性に応じて当日の配置を柔軟に変更し、重点支援が必要な場面に人員を集中させる仕組みを運用している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11		・部屋数が少ないので、人数を分散して活動内容を分けています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11		・日々の清掃に加え、活動終了ごとに環境リセットを行う運用を取り入れ、常に清潔な状態を維持している。	・清掃レベルを保持するために、具体的チェック項目を明確化し、均一な環境維持を図る必要がある。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11		・簡易的な区切りパーテーションや静かなスペースを確保し、児童が必要に応じて落ち着ける環境を運用で補っている。	・児童の状態に応じての利用時のスペースを確保する時間やルールの整備が必要。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11		・日々の振り返りを短時間で実施し、支援改善につなげる仕組みを継続している。 ・PDCAサイクルの記録をシェアドライブにて全職員に可視化している。	・振り返り内容が記録化するための簡易記録フォーマットの導入が必要である。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11		・保護者が気軽に意見を出していただけるように、連絡帳システムを導入しまたいつでも個別でLINEにてご連絡をいただけるようにしています。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1	・意見を出しやすい環境に配慮した個人面談やミーティングを行い、意見等を把握しています。	デイリー・ウィークリーミーティングや個人面談を通して職員の意見を把握し、情報共有を行うことで課題を整理し、迅速な対応につなげている。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		11		・現在は保護者及び事業所内の評価を行っており、外部評価を行っていません。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11		・研修ソフト及び外部研修（OISTプログラムへの参加等）にも参加し、毎月1回以上の研修を実地しています。	・職員が自主的に受講できる研修ツールを活用し資質向上を図る以外にも、今後は外部研修や内部研修の機会も計画的に確保し、さらなる専門性向上に努めていく。
適切な	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11		・支援プログラムは児童の特性に応じて作成・公表し、職員間で共有しています。	・デイリー課題シートや進捗チェック表、振り返り記録を活用し、支援の見える化と継続的な改善につなげる仕組みを整えてまいります。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11		・こども本人および保護者への丁寧な聞き取りを基に生活状況やニーズを把握・分析しアセスメントを行い、個々に応じた放課後等デイサービス計画を作成しています。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		・月2回程度の検討会を実施し、支援に関わる職員間で情報共有を行っている。共通理解のもと多角的に検討し、こどもの最善の利益を考慮した計画作成に努めている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11		・計画内容を共有して統一支援を行っている。	・非常勤職員への共有が不十分な場合があるため、共有ツールの活用が必要である。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11		・主観的記録に偏らないよう、数値やチェックリストによるリタリコスキルリストツールを活用している。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11		・本人支援だけでなく家族支援や地域連携も意識し、包括的な支援内容を設定している。	・家族支援や地域連携の場を増やしていただけるように努めます。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11		・複数職員でアイデアを出し合い活動内容を決定している。	・担当者の偏りを防ぐため、ローテーションの導入が必要である。

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	・季節行事や外出活動を取り入れ、活動の幅を広げている。	・児童の状況や当日の様子に応じて活動内容を柔軟に変更できるよう、事前に複数のプログラム案や代替活動を準備し、臨機応変に対応できる体制を整えるよう努めます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11	・児童の発達状況や状態に応じて個別活動と集団活動を適切に組み合わせ、社会性の向上や安心して参加できる環境づくりを意識しながら支援を実施しています。	・児童の状況や当日の様子に応じて活動内容を柔軟に変更できるよう、事前に複数の個別・小集団プログラム案や代替活動を準備し、臨機応変に対応できる体制を整えるよう努めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	・1日の活動の流れを毎日のミーティングにて情報共有を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	・支援終了後に職員間で打合せを実施し、振り返りを行い、気付いた点や課題を共有し、次回の支援に活かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	・日々の支援内容を記録し、振り返りに活用している。	・記録の質にばらつきがあるため、記載基準の統一化を目指しています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	・現場記録との連動を強化しながら、定期的に支援内容を見直しモニタリングを行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	11	・4つの基本活動を組み合わせ支援を意識して支援を行っています。	・活動ごとの目的やねらいをより明確にし、支援の質向上につながるよう継続的に見直しに努めます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	11	・児童が自ら選択できるような複数の選択肢を事前に準備し、自己決定の機会を確保している。また、選択を通して主体性や判断力の向上につながるよう支援している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	・児童発達支援管理責任者は必ず参加しています。	・できるだけよく関わって把握している職員も参加し、日常の具体的な事例を基に情報提供を行うことで、他機関と実践的な連携ができるよう努めている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	・学校や医療機関、相談支援事業所と必要に応じて連絡を取り合い、児童の状態に応じた支援が行えるよう調整しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11	・送迎時や連絡帳を通して日々の様子を共有し、学校との連続性のある支援を意識している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	・就学前施設からの情報を活用し、児童の特性を踏まえた支援につなげている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	11	・進学や卒業時に支援内容を整理し、関係機関へ情報提供を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	11	・必要時に助言や研修機会を活用し、専門的支援の質向上を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	11	・放課後児童クラブや児童館、地域イベントへの参加や公園活動を通して、地域の子どもと自然に交流できる機会づくりに努めている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	11	・社会福祉協議会や放課後等デイサービスの協議会にも参加加入しています	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11	・日々の連絡帳や送迎時にて口頭で児童の様子を伝え、家庭との情報共有を継続している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	・公認心理士との連携をし、ご家族が参加できるペアレントトレーニングを開催しています。	・家族参加型の研修会や情報交換会をさらに持てるように努めます。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	・契約時に運営内容や費用について丁寧に説明し、理解を得るよう努めている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11		・定期的な面談等を通して保護者や児童の意向を確認し、こどもの最善の利益を踏まえた支援計画の作成に努めている。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	・放課後等デイサービス計画を提示しながら支援内容を説明し、保護者から十分な理解を得た上で同意を取得している。		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11			・保護者からの子育てに関する相談に適切に対応し、面談や状況に応じた助言・支援を行うよう努めます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	11		・親子・きょうだいで参加できる交流会を設けています。	・保護者同士で交流する機軸は増えたが、きょうだい同士で交流する機会を次年度はさらに開催できる回数を増やしていきたいと思います。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		・苦情受付から対応・再発防止までの流れを明確化し、担当者だけでなく職員全体で共有することで、組織として対応できる体制を整備している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11		・活動報告や予定を通信で定期的に発信し、保護者が事業所の様子を把握できるよう努めている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11		・書類の施錠管理や電子データのアクセス制限を行い、情報漏洩防止の仕組みを整備している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11		・児童の特性に応じて視覚支援や短い指示を用い、分かりやすい伝達方法を工夫している。また、保護者にも状況に応じた説明方法を選択している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11		・地域行事への参加や外出活動を通して地域との接点を持ち、社会参加の機会を提供している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11		・各種マニュアルを整備・周知し、職員が確認できる体制を整えるとともに、実際の場面を想定した訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11		・災害時を想定した避難訓練を定期的に実施し、児童と職員の安全確保に向けた行動確認を行っている。また、役割分担も意識している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11		・服薬や発作等の情報を事前に保護者と確認し、職員間で共有することで、緊急時にも迅速に対応できる体制を整えている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11		・個別対応を行い、誤食防止の確認手順を徹底するとともに、職員間で情報共有し対応の統一を図っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11		・安全計画を基に、定期的に研修及び訓練を行っており、事故防止に向けた環境整備を継続している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11		・安全計画や緊急時対応について保護者へ説明し、家庭と連携した安全確保に努めている。	・内容の理解度に差がないように、再説明や資料配布など理解を深めるように努めます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11		・ヒヤリハット報告の提出・共有を習慣化し、軽微な事例も含めて検討会で分析し、再発防止に向けた対策を実施している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11			・虐待防止に関する外部研修機会を確保し、日常の声かけ等を通して適切な関わりを意識し、不適切対応の予防に努めている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11		・身体拘束は原則行わないが、緊急時に備え事前説明を行い、組織的判断と保護者同意のもと適切に対応し児童発達支援計画へ記載している。		